



蒼

あ お そ ら

穹

八戸市立長者中学校
学校だより第9号
文責：石毛 清八
平成29年 7月21日
TEL (0178) 43-4871

自分の成長に 挑戦する夏休みに

校長 石毛 清八

今日で一学期が終わります。4月初めから今日まで皆さんを見てきましたが皆さんはいろいろなことを体験し、努力を重ね、成長してくれました。

4月に行われた3年生の修学旅行。都内自主研修などのメニューをこなして、学校に帰った時の皆さんは修学旅行のテーマだった「一つ上の自分」になれたように見えました。5月に行われた1年生の宿泊体験。集団生活のルールや仲間との協力について学びました。入学して3か月半が経ちましたが、様々な経験を通して中学生らしさが身についてきました。同じ日程で行われた2年生の農業体験。外部講師を招いての事前学習など用意周到で臨んだこの活動を通して、食の大切さや働くことの意味を学び、仲間との絆を深めてきました。3年生が引退した後は、君たちが中心となって活動する場面が増えてきます。生活面でも部活動でも後輩の手本となる行動を身に付けてください。

6月に行われた市の中体夏季大会と7月の県大会。3年生が最後の力を出して頑張ってくれました。3年生の皆さん、お疲れ様でした。よきリーダーとして後輩を力強く引っ張ってくれました。この思いは必ず1・2年生に受け継がれるはず。部活動も一段落した人が多いと思いますが、これからは自分の進路を考えた行動ができるように計画を立てて取り組んでください。

そして、一昨日の合唱コンクール。結果はそれぞれですが、クラス全員の心を一つにして、はつらつと、あるいはしっとり、各学級の特色ある演奏を聴かせてくれました。どのクラスも、いくつかの困難を乗り越えて臨んだコンクールだったことと思います。コンクールで培ったクラスの団結力をぜひ、今後に活かしてください。

さて、明日から31日間の夏休みに入ります。どう過ごすのでしょうか？この夏休みを有意義な休みにするかどうかは皆さん一人一人にかかっていると思います。自分が主人公となって有意義な休みにするために、次の三つのことに挑戦してみてください。一つ目は「体を鍛えよう」ということです。早寝早起

き朝ごはんという生活のリズムをくずさないこと、そして1・2年生は部活動に休まずに頑張ってください。

二つ目は「頭を鍛えよう」ということです。先日返してもらっている二次考査の結果の反省を生かして毎日2時間以上は勉強し、夏期休業中の課題は必ず期限内に間に合うように提出してください。特に、3年生にとっては、まさに試練の夏になるでしょう。自分の進路を見定め、積極的に学習に取り組んでください。

最後に三つ目は「心を鍛えよう」ということです。休み中ですが挨拶をしっかりとってください。そして、1日1回は、「ありがとう」と言ってください。そして、「ありがとう」と言ってもらえる生活をしてください。

この三つを実行して、「自分の成長に挑戦する夏休み」にしてください。決めたことを続けることが、「心」を鍛えることにつながります。

それでは、楽しい夏休みを過ごして、8月22日に、元気に全員事故もなく、ここでひとまわり成長した皆さんに会えることを楽しみにしています。

(一学期終業式式辞)

響く感動の歌声

市公会堂で校内合唱コンクール開催

7月19日、八戸市公会堂において、元八戸聖ウルスラ学院高等学校副校長・音楽科長の大川みほ先生を審査員に迎え、校内合唱コンクールが開催された。

コンクールは学年ごとに決められた課題曲と各学級で選んだ自由曲の2曲を演奏し競われた。演奏後の講評で大川先生は「数年前に来たときに比べて合唱のレベルが上がってきている。マナーの良さにも感心しました。」と感想を述べられ、全校生徒を激励してくれた。審査結果は、次のとおりである。

【1学年】最優秀賞1組：自由曲「今を生きる」、優秀賞3組：同「自分だけの道」、優良賞2組：同「COSMOS」【2学年】最優秀賞3組：同「秋祭り」、優秀賞1組：同「生きている証」、優良賞2組：同「君とみた海」【3学年】最優秀賞3組：同「キミのもとへ…」、優秀賞2組：同「ともしびを高くかかげて」、優良賞1組：同「時の旅人」【指揮者賞】田端啓太(1-2)、藤嶋沙綾(2-3)、田端将大(3-1)

合唱で築いた団結力を 二学期の生活に生かそう



クラスの合唱をまとめていく上での課題は、どの学年、どのクラスにも共通していることです。練習に集中できない、クラスがまとまらないといった音楽以前の課題をどのように改善していくかが大切なのです。学級の中には、歌うことが得意な人がいれば、そうでない人もいます。また、合唱コンクールへの思いを早くから高めている人も、なかなか高められない人もいたでしょう。そうした違いを包み込みながら一つの歌を仕上げていくことは簡単なことではありません。それぞれの学級では合唱を作り上げていく中で、様々な葛藤が生まれ、時には挫折しかけたこともあったようですね。ドラマのような場面がたくさんあったことを伝え聞いています。そうしたことを乗り越えて、自分たちの力で作り上げてきた歌だから価値があるのです。

本当の合唱は、一人一人の歌声とともに気持ちを合わせることで創り上げます。美しいハーモニーが完成したときには、聞き手に感動を与えるのはもちろんのこと、歌い手自身も心が震えるような感動を味わえます。感動は、誰かが用意してくれるものではなく、一人一人が気持ちを合わせることで創り上げるのです。

合唱コンクールでよい歌声を発表することで賞に結びつくかどうかということは、皆さんにとってみればとても重要なことであるかもしれません。しかし、賞をとることだけに終わってほしくありません。クラスの中での合唱の練習を通してどんなにかかわり方ができたのか、一人一人の願いや思いを大切にできたのか、学級としての集団のまとまりを合唱練習を通じて創り上げることができたのかということを大事にしてもらいたいです。このコンクールを通して築き上げたクラスの団結力をぜひ、二学期の様々な行事や活動に生かしてほしいと願っています。

(校内合唱コンクール閉会式校長挨拶)

地区代表金賞！ 青森県吹奏楽コンクール八戸地区大会



悔いの残らない演奏をする

吹奏楽部部長 3年1組 沼尾 明矢乃
私たち吹奏楽部は、先日行われた青森県吹奏楽コンクール八戸地区大会で金賞を取ることができました。しかし、地区大会での演奏が完ぺきという訳ではなく、改善点はまだまだたくさんあります。私たちの今年の目標は、県大会で金賞を受賞することです。今年は人数の規定により、今までよりもハードルが高い「中学校大編成の部」に出場しました。そのため、演奏する曲が2曲になり、1曲にかける練習時間が今までより減ったため、目標を達成するためには、これまでよりも密度の濃い練習をしなければなりません。

私たちの課題は、メロディーと伴奏のバランス、タンギングをそろえることや、音の処理をきれいにすることなどがあります。今回の地区大会を通して、たくさんの課題が見えてきました。それらの課題を克服するために、個人練習、パート練習、基礎合奏の時間を大切に、音形や音色の改善、吹き方、タンギングの仕方など、一つ一つのことを見直し、全体の合奏の時間には、自分の改善だけではなく、音楽の進み方やビートの感じ方など改善点を見つけられるようにしたいです。

また、顧問の福井先生、窪田先生、コーチの小笠原先生、フルート奏者の秋野先生、卒業生の三浦明香璃先輩など、忙しい中、指導してくださった方々や、地区大会に足を運んでくださった方々への感謝を忘れずに、これからの練習を大切に、県大会では、悔いの残らない演奏をしてきたいです。